



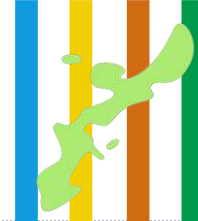
Peace Now! Okinawa 2020



全国大学生協連 学生委員会



概要



例年は

9月上旬 3泊4日 沖縄県南部

参加者：100名程度（全国から集まります）

主催：全国大学生生活協同組合連合会

内容：

沖縄戦の歴史

現在（戦後）の沖縄で起こっている基地問題

全国の仲間と交流

■2020年度実行委員会

実行委員長：全国大学生協連執行役員・全国学生委員

事務局次長：九州工業大学4年/九州ブロック学生事務局

企画局長：琉球大学3年生

実行委員：琉球大学1年生～4年生 8名

全11名

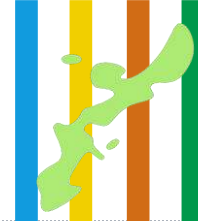
琉球大学生協の組合員（主に学生）が作っている！

■獲得目標

- ①組合員が多角的・多面的にみることを通じて今まで自分が持っていなかった視点に気づく。
- ②組合員が今社会で起きていることに対して自分なりの意見を持つ。

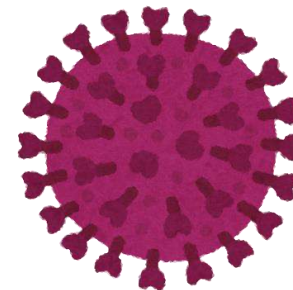


では、20年度は。



3月上旬に実行委員会でキックオフ会議

しかし、新型コロナウイルス流行により現地開催の中止を決断。



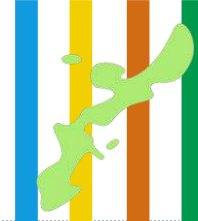
→実行委員会にて

「どんな形でもいいから伝えたい！」

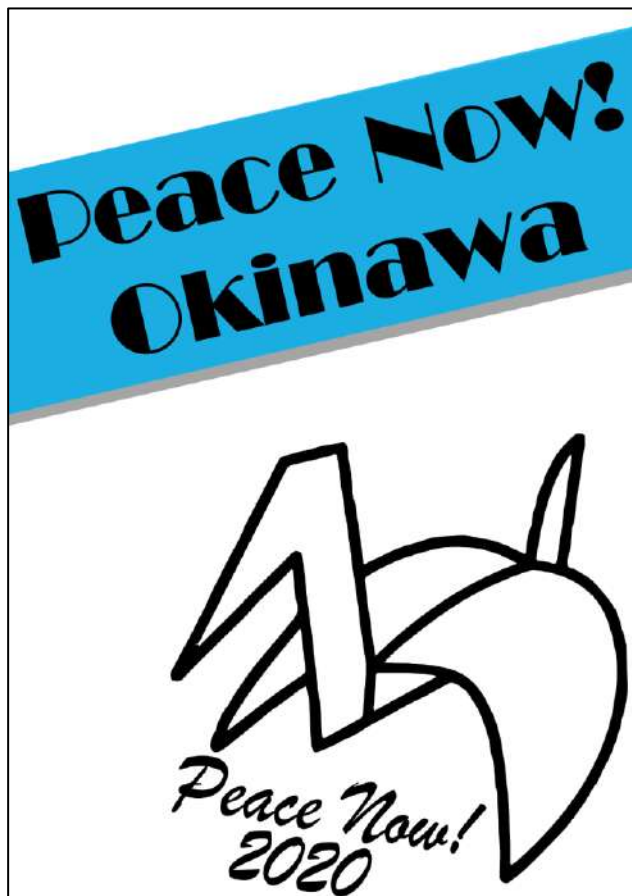
「沖縄で平和を考えるきっかけにしてほしい」



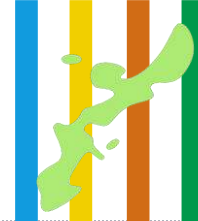
そこでの代替案として



■冊子と動画の配信



位置付け

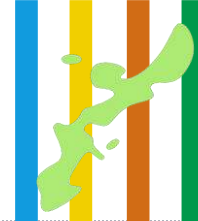


- ✓誰でも冊子を使って学ぶことができるため、現在の組合員だけではなく、**未来の組合員も沖縄戦や基地問題を学ぶための資料**として残すことができる点。
- ✓冊子と動画での提供は、参加人数に限りがないので、**より多くの組合員に**届けることができる点。
- ✓冊子だけでなく動画も使うことにより、**実際にFWに行く体験に近い状態の学び**を提供することができる点。

以上の理由から冊子と動画の配信を決めました。



内容



■冊子

【沖縄戦前】

沖縄戦前の沖縄と日本の教育・沖縄戦に至るまでの各国の外交過程

【沖縄戦中】

首里城陥落までの戦い・沖縄本島南部での戦い・組織的戦闘の終了から降伏文書調印まで・軍隊の恐ろしさ

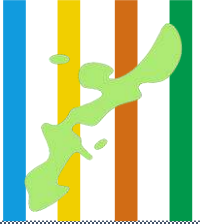
【沖縄戦後】

本土復帰までの流れ・沖縄県民から見た本土復帰までの流れ

【現在】

米軍の犯罪・移設問題・騒音問題・琉米文化

内容



■動画

✓首里城



✓轟豪

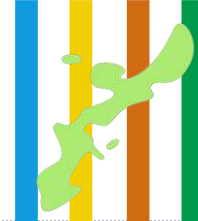


✓クリアゾーン





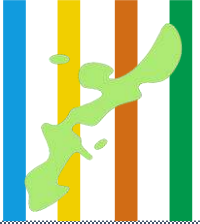
工夫した点



- 初めて学習する人でもわかりやすく！
- 冊子だけではイメージが湧きにくいところは動画も合わせて活用することで実際に自分の目で見るができる！



まとめると



- ✓コロナ禍で現地での開催はできませんでした。
- ✓しかし、現地の実行委員の伝えたい思い。
- ✓現地開催では伝えることができない人にも伝えることができた。



全国大学生協連

「戦後75年企画」について



全国大学生生活協同組合連合会
全国学生委員会

連絡先：nfuca-gakusei@univ.coop

2021.03.26 ピースアクション Okinawa

1. 戦後75年企画の背景

企画趣旨について

戦後75年企画

1945年第二次世界大戦終戦から、75年となる2020年。大学生協にとって2020年は、より多くの人とともに「平和」について考える1年にできないかと考えています。

大学生協の平和活動は、第2次世界大戦における「学徒出陣」への反省から、「平和の実現のために何ができるか知り・知らせ・考え・話し合い・行動する」活動を進めてきました。特に、1981年から開始した体験型平和学習PeaceNow!は、累計4,000人以上が参加し、多くの若者にとって平和と向き合う機会になっています。

「戦後75年」は、NPT再検討会議やヒバクシャ国際署名最終年という“節目”の年であります。そして、証言者の生の声を聞ける「最後の世代」として、学び・考え・行動するときです。

ナショナリズムの台頭・不寛容な国際社会の中で、若者の声と考えは、世の中を、世界を動かす力を持っています。より多くの学生とともに、「平和」の問題を学生らしく多角的に捉えるムーブメントを起こすため、本企画を提案いたします。



企画趣旨について

2020年

Beforeコロナ下での
企画趣旨の検討

戦後75年



学生・若い世代が
伝える側へ

NPT再検討会議



国際社会の
動向に注目！

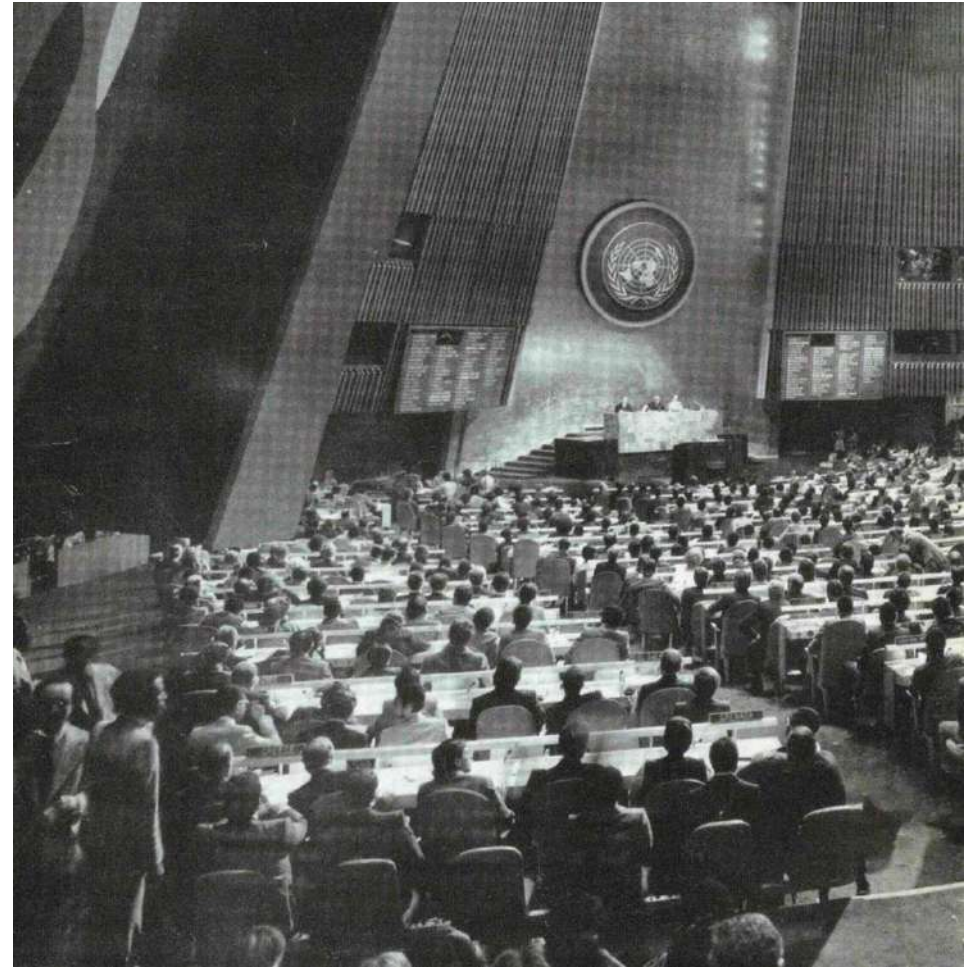
新時代の平和活動



Web・SNSを
活用して実施

生協代表団のこれまでの経過

- 第1回国連軍縮特別総会
(SSD I) 1978年5月
 - ✓日本のNGOの一員として参加。
 - ➡統一代表団のうち、
生協代表として27名が参加。
- ✓「核兵器完全禁止を求める署名」
 - ➡署名総数約1,900万筆。
 - ➡うち135生協112満筆が
生協関連からの署名提出。



核兵器完全禁止を目指して多国間協議
で軍縮を進める会議としては初めて

生協代表団のこれまでの経過

- ・第2回国連軍縮特別総会(SSDⅡ) 1982年6月
- ✓日本生協連代表団:200名(137会員・団体)
- ✓署名382万筆・折り鶴60万羽を携えて参加
- ✓NYでの「100万人平和行進」参加
- ✓カンパ活動も行い、海外16の
協同組合に「原爆写真パネル」進呈

米ソの核軍拡競争の中で、ヨーロッパ
中心に反核運動が盛り上がり開催へ。
実行のある成果は見えづらいものに。



2020年NPT再検討会議は延期に…

2020年3月16日 毎日新聞より

被団協代表団が米国派遣中止 国連NPT再検討会議に合わせ4月に予定

毎日新聞 2020年3月16日 19時06分 (最終更新 3月16日 19時06分)

社会一般 > アメリカ > 新型コロナウイルス (新型肺炎) > 速報 > 社会 >



核拡散防止条約 (NPT) 再検討会議に向けて開かれた国連安全保障理事会の公開会合＝米ニューヨークの国連本部で2020年2月26日、隅俊之撮影

日本原水爆被害者団体協議会 (日本被団協) は16日、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、4月下旬に米ニューヨークの国連本部で開幕予定の核拡散防止条約 (NPT) 再検討会議に合わせた現地への代表団派遣を中止したと発表した。「高齢で持病を抱えた被爆者を多数含む代表団の派遣が困難になった」としている。

代表団は被爆者約30人と支援者らで構成。

2020年3月28日 時事通信社より

NPT再検討会議の延期決定 「来年4月までに」開催 国連

3/28(土) 10:03配信

Jiji.com 時事通信社



核拡散防止条約 (NPT) 再検討会議の議長に内定しているアルゼンチンのスラウピネン氏 (右) = 2019年6月、コロンビア中部メデジン (EPA時事)

【ニューヨーク時事】国連は27日、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、4月27日～5月22日にニューヨークの国連本部で開かれる予定だった核拡散防止条約 (NPT) 再検討会議の延期を条約加盟国が決定したと発表した。

流行収束のめどがたたず、日程は未定だが、加盟国は「状況が許し次第、2021年4月までに」開催することで合意した。

再検討会議は5年に1度開かれる核軍縮・不拡散問題の重要会議。会議の議長に内定しているアルゼンチンのスラウピネン氏は13日付の加盟国宛ての書簡で、4月27日にニューヨーク駐在者だけで事務的な会合を1日だけ開き、残る日程は延期することを提案していた。

しかしその後、ニューヨークで感染が急速に広がり、不要不急の外出や集会が規制され、会議開催自体が非現実的になった。このため、3月25日に新たに書簡を送り、会議全体の延期を提案。27日午後までに加盟国から提案への異議が出ず、正式に決まった。

スラウピネン氏は書簡で、「状況が許せば、すぐに再検討会議が開けるよう尽力する」と強調した。

「戦後75年企画」におけるテーマを設定！

知り・知らせ・考え・話し合い・行動する

大学生協の平和活動は、まず「知る」ところからスタートします。学んだことを周りに伝え、一緒に考えて、「微力でも私たちにできることは何か？」考えながら行動していきます。



学生らしくアカデミックに・多角的に

大学という学術機関にある生活協同組合として、様々な視点・視野をお持ちの教職員と一緒に学びます。また、証言者の方からお話を伺う中で、多角的に平和について考えます。



一緒に頑張る・考える仲間を増やす

「戦後75年企画」は、一人が頑張るのではなく、一緒に頑張る仲間を増やすことを大切にします。一緒に平和活動に取り組む仲間、様々な視点から平和を考える仲間を探します。より多くの人と「平和」が生活の基盤であることを再確認します。



2020年、コロナ禍で「戦後75年企画」は…

オンラインを活用し、“つながり”を生み出す平和運動
若い世代同士の頑張りをつなぎ、新しいスタイルの平和運動を実現する！

オンラインの
会議ツール
(zoom)を
活用して、
遠隔地からも
「つながる」

地域生協の
組合員とも
一緒に平和を
考えて、
一緒に行動する
仲間を増やす



若者が中心に
積極的に
平和活動を
広げている
諸団体と
「つながる」

大学生協が
大切にしている
“自分たちの手で
民主的な意思
決定ができる
社会をつくる”
仲間を広げる

2. 「戦後75年」企画の内容

「戦後75年企画」では3つの取り組みを実施

①

平和の実現の
様々な担い手と
オンラインで
「つながる」



②

SNSやWebを
活用して
様々な平和の
想いを発信する



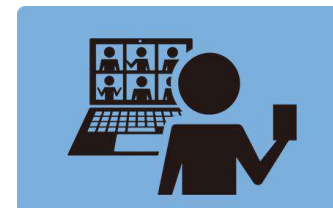
③

オンライン
ワカモノNPT
再検討会議で
国際社会を学ぶ



①平和の担い手とオンラインで「つながる」

- 平和の実現を願い行動する人たちとオンラインでつながるための「オンラインミーティング」を開催。
- インターネットで頑張る若者同士がつながり・考える！



広島県生協連
高田専務理事



「ハチドリ舎」
瀬戸麻由さん



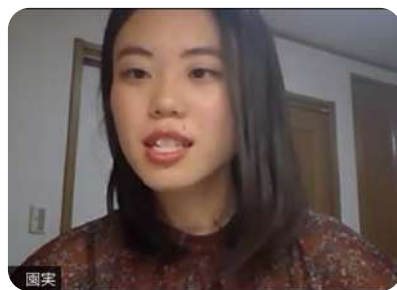
崇徳高等学校3年生
新聞部 高垣慶太さん



東友会名誉会長
大岩 孝平さん



カクワカ広島
田中 美穂さん



Action! for Peace
中村 園実さん



長崎ユース代表団
光岡 華子さん



議員ウォッチ
高橋 悠太さん・内藤 百合子さん



①平和の担い手とオンラインで「つながる」

第1回 「キックオフ&NPT再検討会議を知る」

2020.05.06



企画 広島県生協連 高田専務によるプチ学習会

高田専務より、2015年のNPT再検討会議の様子・取り組みについてご紹介していただき、代表派遣のイメージを膨らませる時間になりました。また、広島県生協連での平和活動もご紹介いただきました。**「明るく」「前向きに」今の状況でできる平和活動に取り組む大切さ**を学びました。

「実際に2015年に行かれた話を聞くことができ、NPT再検討会議の意味を考えることができました。」

「“平和や核の問題をリラックスして語り合う、語り継ぐ”ことの大切さを実感を持って感じられました。」



◀広島県生協連の高田専務理事からは無関心と不寛容な社会への問題意識も伝えていただきました。

①平和の担い手とオンラインで「つながる」

第2回 「平和×ワカモノ」今だから！ワカモノだから！できること 2020.06.09

プチ学習会① ハチドリ舎 瀬戸 麻由さん

「“平和活動”って何だろう？」を切り口に、大学生の頃(2013年)のユース非核特使としての活動から、現在広島で取り組んでいる平和活動(語り合う活動や被爆建物の保護活動・歌手としての平和活動など)について紹介いただきました。若者が平和活動する際のマインドを学ぶ機会になりました。

「“いろいろな場所にスイッチを押していく”という表現をされていて、自分の中でいいなと思いました。」

「若者への期待はよく聞きますが、“若者のスピード感”や“小さな爆発をいくつも起こす”という姿勢は共感しました」



◀瀬戸さんは平和を語り合う広島のカフェ「ハチドリ舎」や、平和を考える「つむぎ屋」などの活動に取り組んでいます。



プチ学習会② 崇徳高校新聞部 高垣 慶太さん

崇徳高校新聞部の平和問題担当班長として、被爆建物や国会議員への取材活動、ローマ教皇の広島訪問の取材などのエピソードを共有いただきました。また、オンラインでの平和活動を開始した経緯についても教えていただき、コロナ禍でも若者が平和活動をしていく意義を考えることができました。

「高校生の頃から、問題意識を持って組織の中で活動していくには、高垣さんのようにあれだけ思考して、行動していかないといけないのだと感じました。」

「“未来に対する責任”という言葉に共感しました。次の75年後に私たちはどんな未来を遺せるのでしょうか…？」



◀高垣さんは崇徳高校新聞部の平和担当として取材活動に取り組む傍ら、「戦後75年ユースラボ」というオンライン企画を実施しています。



①平和の担い手とオンラインで「つながる」

第3回 「戦後75年の夏」戦後75年の夏、いま改めて考えよう！ 2020.07.26



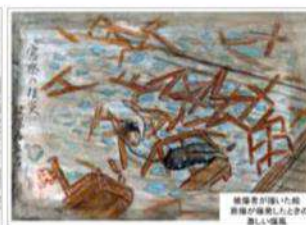
被爆証言「1945年8月6日 ヒロシマを知る」

戦後75年の夏を迎えるにあたって、大学生世代に向けた被爆証言を行っていただきました。75年前の広島でどのようなことが起こったのか、大岩さんが見た状況や感じたことをリアルにお話していただきました。「戦争はしてはならない」「二度と核兵器を使うことはあってならない」というメッセージを若者世代にいただきました。

「原爆は人間らしく生きる権利、死ぬ権利を奪う兵器であるというお話が印象に残った。核兵器と人間は決して共存することはできないと感じました。」

「被爆証言は語り手によって違うし、同じ語り手でも内容が変わったりします。何回聞いても苦しくなります。」

「戦時中の生活や当時の考えを聞けたとき、改めて“現代のひとはどれだけ自由に話せる・生活できる”有難さを感じずらくなっているのかを痛く感じました。」



「人の人生まるまる奪う原爆はやはり非人道的でしかないと感じました。自分の中で知識を深めて伝えるべき想いを広めたいと思いました。」

「“再び被爆者を作ってはいけない”“核戦争は昔話ではなく、これからの話だ”という言葉が特に印象に残りました。」

「様々なことに想いを馳せることも増えた大学生となった今、こうして聴くとまた思うところが多くありました。とても貴重な経験となりました。」



大岩 孝平さん
一般社団法人
東友会名誉会長
(三鷹市在住)

大岩さんは、旧制中学1年(当時13才)の8月6日、広島市段原中町の自宅で被爆されました。

現在は、東京の被爆者団体「一般社団法人 東友会」にご所属され、平和と反核運動について伝える活動に取り組んでおられます。



①平和の担い手とオンラインで「つながる」

第4回 「ワカモノの力、再確認！」

2020.09.25



田中美穂



1994年 福岡県北九州市出身
2017年 広島に就職
2018年 ICANのニュース翻訳を始める
2019年 カクワカ結成
現在 カクワカ共同代表、
被服支廠キャンペーンメンバー
NPO法人PCVスタッフ

- 福岡県北九州市の出身。大学までは福岡で過ごす。
 - ❑ 「平和」への関心は全くなかった。
- 2017年に、広島の企業に就職をして広島県へ。
 - ❑ 今も、自動車関連の設計の翻訳をしている。
 - ❑ すぐに関心を持ったわけでもなく、1年ほど普通のサラリーマンとして過ごす。
- 始めて平和活動をするようになったきっかけ
 - ❑ ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン：2017年にノーベル平和賞を受賞）の国際運営委員を日本でされている川崎哲さんに知り合いを通じて出会った。
 - ❑ 話を聞いている中で、自分も何かできないかと思った。
 - ❑ 英語を学んできて、仕事でも英語を使っているの、自分の得意分野は英語。
 - ❑ 「英語を生かして自分も何かできないか？」と相談したところ、「ICANのニュースが英語だから日本でなかなか広がらないんだよね」と言われて、ICANニュース翻訳をボランティアで始めた。
- 翻訳を機に、広島で平和活動をしているいろんな人と出会うようになって、カクワカの結成に携わった。



中村園実(なかむら・そのみ)

- 所属：早稲田大学 法学部4年
国際人道法を専攻。法を介した、平和的解決について学んでいる。
- 広島県出身・被爆3世
- 中学1年生～高校3年生
広島市主催「中・高校生ピースクラブ」参加
- 大学1年～現在
ピースクラブの卒業生でAction! for Peaceを結成
被爆ピアノコンサート等、平和や原爆について考えるきっかけとなるようなイベントの企画

①平和の担い手とオンラインで「つながる」

第5回 「核兵器廃絶×ワカモノ」核兵器禁止条約発効に向けて

2020.11.09



プチ学習会① 議員ウォッチ 高橋さん 内藤さん

ヒバクシャ国際署名に賛同している国家議員の方がどれだけいるのか可視化し、市民がアクションを起こせるようになることを目指し取り組んでいることを紹介していただきました。また各国の政策から、国際社会における日本の立ち位置についても学ぶ機会となりました。最後に、お二人が平和問題に取り組んでいる想いを教えていただき、核廃絶に向けた若者の重要性を考えることができました。

「核兵器禁止条約が発効確定となり、今後の平和活動のアプローチを考えている中、先進的なお話を伺って刺激的でした。自分たちは”尖った”団体だと胸をはって活動していらっしゃる姿がとてもかっこいいです。自分たちはどうありたいか、何が強み＝尖っているのか、再度振り返りたいと感じました。」



「小さいことの積み重ねの先に大きな変化が望めることや、やりたいことを個性や持ち味を活かしながらどう実現していくのか、といった話には胸を打たれました。」



◀ 内藤さんは議員ウォッチのリサーチャーをしています。政治家がなにを考えているのかわからないとの思いから活動に参加したそうです。



◀ 高橋さんは川崎哲さんとともに議員ウォッチを立ち上げ、様々な平和活動に取り組んでいます。



①平和の担い手とオンラインで「つながる」

第5回 「核兵器廃絶×ワカモノ」核兵器禁止条約発効に向けて 2020.11.09



プチ学習会② ナガサキ・ユース代表団 光岡さん

ナガサキ・ユース代表団の5期生/Peace Caravan隊として、活動してきた取り組みを紹介していただきました。ナガサキ・ユース代表団としてNPT再検討会議に参加し、各国の政府やNGOとの意見交換やロビー活動を行ったことなど、貴重な経験を学ぶ機会となりました。また、Peace Caravanの活動を通じて感じた、「どのくらい多くの人が活動出来るようになるのかが大事だ」とのメッセージを伝えていただきました。

「私たちがどう学びを作っていくのかを考えさせられました。大学4年間というところの問題意識は共感するので、私たちが学ぶことや引き継ぐことにもつながってくるなと感じました。」

「地元や場所がどうではなく、平和そのものを考えるようになったきっかけは刺さるし、熱がこもるところなので、色々な人の話を聞いてみたいと思いました。」

▶ 光岡さんは ナガサキ・ユース代表団の5期生/Peace Caravan隊の経験を踏まえ、現在は院生として研究をしています。



Peace Caravanのねらい



②Web・SNSを活用した「平和」の発信

- 全国大学生協連ホームページに戦後75年特設サイトを設置し、平和への様々な想いを発信しています。
- Twitter・Instagramを活用し、「#未来へのボタン」企画を展開。学生のリアルな平和な想いを伝えました。



②Web・SNSを活用した「平和」の発信

「未来と向き合い平和について考える」
大学生協の戦後75年・平和活動特設サイト

未来と向き合い
平和について考える



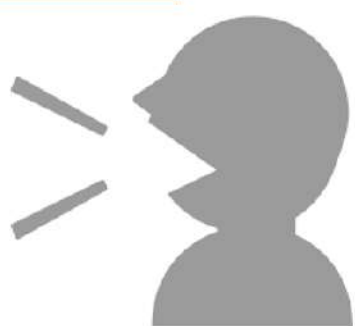
大学生協の平和活動特設サイト



平和と**未来**について



知り



知らせ



考え



話し合い



行動する

ための **新しい集い場** がオンライン上に誕生しました！

プラットフォーム

②Web・SNSを活用した「平和」の発信

おススメ記事①

平和インタビュー

平和活動に取り組む若者や
有識者(知識人)の方々に、
活動内容やその原動力について
インタビューしています！

おススメ記事②

Study 学習記事

平和を取り巻く社会情勢や
平和運動を新たな形で取り組む
若い世代のチャレンジを特集
記事として掲載しています！



<https://www.univcoop.or.jp/peace/index.html>

Home > Interview > ワカモノインタビュー > ワカモノインタビュー #02 広島市立基町高校普通科創造表現コースのみなさん

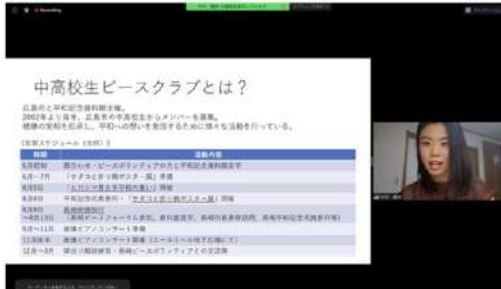
ワカモノインタビュー #02 広島市立基町高校普通科創造表現コースのみなさん

 interviewee インタビューー 原田 真日瑠 (広島市立基町高校普通科創造表現コース3年)	 interviewee インタビューー 丸川 裕世 (広島市立基町高校普通科創造表現コース3年)
 interviewee インタビューー 横山 葵央 (広島市立基町高校普通科創造表現コース3年)	 interviewee インタビューー 岡田 友梨 (広島市立基町高校普通科創造表現コース2年)
 interviewer インタビューー 大平 鈴音 (Peace Now! Hiroshima 2020実行委員 ／島根大学文学部)	 interviewer インタビューー 長尾 香奈 (中国・四国ブロック2020年度学生事務局 ／愛媛大学文学部)

Contents

- 自己紹介
- こんな活動をしています！
- 「怖い」で終わらずに平和について考えてほしい！
- 伝えるって難しい！ 伝わるって嬉しい！
- 未来に向けて私たちにできることは…？

中・高生のころの活動から ～原爆の本当の恐ろしさ～



- 広島市と平和記念資料館主催の「中・高校生ピースクラブ」で活動していた。
- 広島市在住or在学の中・高生を対象にメンバーを募集しています。
- 今日は、取り組みの一部を紹介。

広島青少年平和の集い

- 8月5日に全国から小・中・高生を集めて、被爆体験を聞いたり、ワークショップをしたりする。
- 「ピースクラブ」のメンバーは運営の面でサポートをしていた。
- 1年を通して広島原爆についてばかり学んでいたが、全国から集まった人とともに東京大空襲や沖縄戦などの話も聞くことができた。
- いろんな角度から自分たちの活動を見直せた。

②Web・SNSを活用した「平和」の発信

SNSを活用して個々人の
平和への想いをアウトプット！
「#未来へのバトン」

戦後75年企画
#未来へのバトン

全国大学生協連では、戦後75年である2020年、全国の大学生協の組合員とともに「平和」を考え、行動する機会として「戦後75年企画」を実施します。

Twitterを活用し、6月1日から、第2次世界大戦の終結した8月15日（終戦の日）まで、75日間「平和への想い」を各個人や大学生協のTwitterで発信していきましょう！2020年Peace Now！の一環でもある「#未来へのバトン」をハッシュタグとして、私たちの平和への想いを未来へとつないでいきましょう！

2つのハッシュタグをつけてツイートをお願いします。
#未来へのバトン #びーすなう

あなたの指で、
あなたにとって「平和」とは？
一人ひとりの平和への想いを
ツイートする際に！

あなたの指で、
平和を感じられる場所や
平和について考えさせる本を
紹介する際に！

あなたが日常会話で
平和を感じる言葉を
Twitterでつぶやく際に！

全国大学生協連Twitterでも75日間連続でツイートをしていきます！
ぜひ全国大学生協連Twitter (@uc.zenaku) もフォローをお願いします！



②Web・SNSを活用した「平和」の発信

「#未来へのバトン」

2020.06.01～8.15

75人の平和への想いを発信

戦後75年企画
#未来へのバトン

全国大学生協議では、戦後75年である2020年、全国の大学生協の組合員とともに「平和」を考え、行動する機会として「戦後75年企画」を実施します。

Twitterを活用し、6月1日から、第2次世界大戦の終結した8月15日（終戦の日）まで、75日間「平和への想い」を各個人や大学生協のTwitterで発信していきましょう！2020年Peace Now!のテーマでもある「#未来へのバトン」をハッシュタグとして、私たちの平和への想いを未来へとつないでいきます！

2つのハッシュタグをつけてツイートをお願いします。

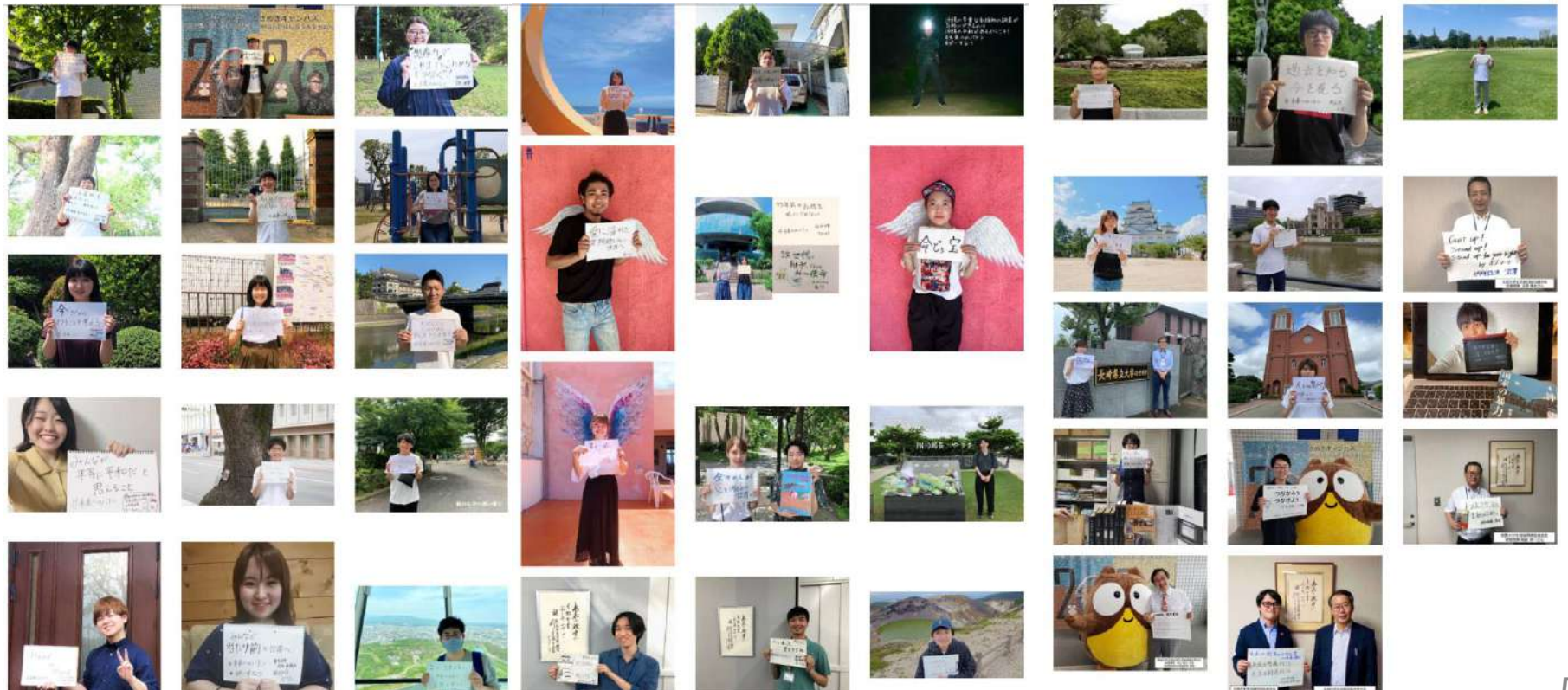
#未来へのバトン #びーすなう

あなたの国で、
あなたにとって「平和」とは？
一人ひとりの平和への想いを
ツイートする際に！

あなたが国で、
平和を感じられる場所や
平和について考えられる本を
紹介する際に！

あなたが日常で、
平和を感じる瞬間を
Twitterでつぶやく際に！

全国学生委員会Twitterでも75日間連続でツイートをしていきます！
ぜひ全国学生委員会Twitter (@uc.zenaku) もフォローをお願いします！



③ワカモノNPT再検討会議のオンライン開催

- 2021年2月27日(土)に「ワカモノNPT再検討会議」をオンラインで開催しました。
- NPT再検討会議代表派遣予定の学生が実行委員となり企画作りを進めました。実行委員会には、ハチドリ舎の安彦さんにお越しいただきました。
- 企画当日は、平和運動家のスティーブン・リーパーさんと長崎大学核兵器廃絶センターの中村桂子さんにご講演をいただきました。



③ワカモノNPT再検討会議のオンライン開催

1. 核兵器廃絶をめぐる情勢や世界の動きをアカデミックに理解し、核兵器廃絶を実現するための行動を考える。
2. 全国で平和活動に取り組む大学生・若い世代が交流し、全国で頑張る仲間の存在を認識する。
3. 全国の生協運動に関わる若い世代を中心に、核兵器廃絶や平和の実現のためにできることを考え、全国の大学生協や地域購買生協において平和活動をより一層発展させる機運を高める。

基調講演：核兵器廃絶をめぐる社会情勢と 核兵器廃絶運動の広がり

国際関係論（核軍縮・不拡散問題）を専門に研究されていらっしゃる長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）の中村桂子先生より基調講演をいただきます。学術的な目線から核兵器廃絶の現状とこれからの政策について学習します。



<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/gakusai/book/09index.html>

アドバイザー：核兵器をめぐる世界の情勢を 理解するワークショップ

アメリカ出身の翻訳家・平和運動家のスティーブン・リーパーさんにご協力をいただき、核兵器をめぐる世界情勢への理解を深める時間です。核兵器禁止条約に対する世界各国の受け止めを理解し、核廃絶へのロードマップを具体化します。



<https://www.iwanami.co.jp/book/b254481.html>

③ワカモノNPT再検討会議のオンライン開催

専門家の目線から、核廃絶のアプローチについて学術的に知る

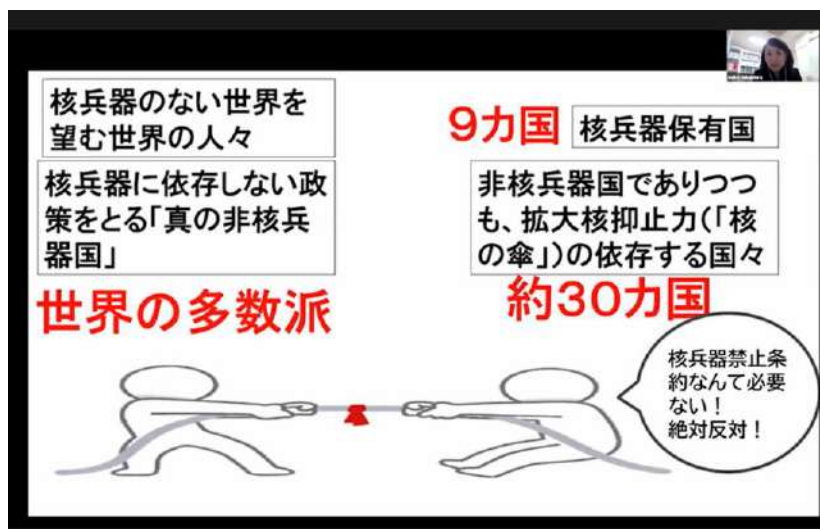


生協の活動は
平和文化を作っている。

その中での大学生・若い世代の
活躍は重要。

平和運動に取り組んでいると、
自分たちが少数派のように
思ってしまう場面はある。

それでも、世界全体でみると、
私たちは多数派なんだ！



③ワカモノNPT再検討会議のオンライン開催

参加者の感想より…



- リーダーを動かすのは自分たちなんだということを再認識する時間となりました。
- 大変厳しい言葉でしたが、私たちに「無関心な人」への働きかけを頑張りなさいとのメッセージだと思いました。
- 一番印象的だったのは、核廃絶はすぐに解決する問題であると、人間が、考えないといけない問題はたくさんある中で、持たないことを選択できる社会にしないといけないと思いました。

- 私たちは唯一の被爆国であり、核の傘の下の国であるという立場がありながらも、その立場に囚われすぎることなく、自分たちがどういう未来を作っていきたいか、どうあるべきかを考えていくことが大切だと感じました。
- 新しい常識を世界で作る、という気概を持って若者が平和活動に臨めるような場づくりを大学生協がやっていくべき。
- 人類がどのような世界に住みたいのかを考えながら一つひとつ考えながら行動することが平和の入り口かと思いました。



③ワカモノNPT再検討会議のオンライン開催

5か国の外交官になりきり、核廃絶に向けての
各国の主張をまとめロールプレイ！たった5か国でも難しい…

「ワカモノNPT再検討会議」ワークショップ

①5つのグループ(各国代表団)に分かれます。



アメリカ合衆国



ロシア連邦



キューバ共和国



南アフリカ共和国



イスラエル

20min

②リサーチペーパーを活用しながら、
その国の核政策について調べます。
そして、その国が世界の核廃絶のために
何ができるかをシナリオを具体化します。

他の国に対してどのような主張をして、
どのような意思決定ができれば核廃絶ができるか、
リアルに考えてみましょう！

イスラエル

核兵器保有と安全保障の関わりについて

- 核兵器は、安全保障の観点から必要不可欠な存在であり、核兵器保有は国家の安全を確保するために必要である。
- 核兵器は、国家の安全を確保するために必要不可欠な存在であり、核兵器保有は国家の安全を確保するために必要である。

核兵器保有と安全保障の関わりについて

- 核兵器は、安全保障の観点から必要不可欠な存在であり、核兵器保有は国家の安全を確保するために必要である。
- 核兵器は、国家の安全を確保するために必要不可欠な存在であり、核兵器保有は国家の安全を確保するために必要である。

③ワカモノNPT再検討会議のオンライン開催

5か国の外交官になりきり、核廃絶に向けての
各国の主張をまとめロールプレイ！たった5か国でも難しい…

「ワカモノNPT再検討会議」ワークショップ

③各国の代表派遣団の主張を伝えます・聞きます

10min



グループ(代表団)の主張を代表者が伝えましょう。(1か国2分程度)

- 核保有国の場合 → どんなルールができたなら／どこの国がどんな行動をしたなら、核廃絶に取り組めるのか主張
- 非核保有国の場合 → その国は、核保有国に対して・国際社会に対してどのような主張をしたいか
- すべての国に共通して → どのような国際ルールの策定が必要になるかを主張

④グループに戻り、核兵器廃絶のための国際シナリオを考えましょう

10min

各国の主張を踏まえて、何ができるのかを考えましょう。(政策的に何が必要か考えましょう)

核廃絶のための条約(核兵器禁止条約)をどう進化させていけるのかを考えてみましょう。

時間があれば、そのような社会情勢の中で、「**日本がどのような役割を果たせるか**」を考えてみましょう。

③ワカモノNPT再検討会議のオンライン開催



5か国でも文化・社会・国民の受け止めが異なる…

これが200か国以上の国際社会になると簡単ではない…だけど！

- 各国の主張を聞き、5か国でもこんなに合意をとることが難しいのかと感じました。また、それぞれの国の主張を理解するには、文化の違い、価値観の違い、宗教や政治の違いなど、たくさん考えないといけないことが分かりました。
- ワークショップを通じて、今まで私は日本人としての視点からものごとを考えていたなと思いました。それぞれの国にはそれぞれの主張があり、それがだめだというのではなく、各国が協力して核をなくすんだという動きが大切だと思います。
- 核廃絶を実現するためには複雑な事情が絡んでいることを他の人のお話を聞いて知ることができました。その上で国のリーダーが本当にやりたいことはなんなのかを考える必要があることを学びました。

■ 頑張るワカモノ世代にもクローズアップ！



まず飛び込んでみる
勇気が大事！

「やりたい」
「ついていきたい」と
思える人との
つながりが大事

上智大学2年生(長崎県:活水高校出身)

「議員ウォッチ」などの団体に所属し、核廃絶に取り組む！

中村 涼香さんに聞く、平和の実現に向けての行動の秘訣！

※参加者の皆様にYouTube動画を共有。

「戦後75年企画」での3つの取り組みから…

①

平和の実現の
様々な担い手と
オンラインで
「つながる」



②

SNSやWebを
活用して
様々な平和の
想いを発信する



③

オンライン
ワカモノNPT
再検討会議で
国際社会を学ぶ



「戦後75年企画」を通じて見えてきたこと①



コロナ禍に負けず、つながることの重要性

- ➡全国の大学生が、場所を超えて定期的につながる
- ➡様々な形で平和活動に取り組む学生同士がつながる



「平和」への想いを、アウトプット・発信し続ける重要性

- ➡コロナ禍で、input/output双方の機会が減少した
- ➡その中でも、Webを活用して発信できる場をつくることが、自分なりに平和を考える機会に！



アカデミックに学び・考え・実践していく重要性

- ➡大学生らしく国際情勢をアカデミックに分析する
- ➡その中で見えてくる「私の第一歩」が大事！
(国際社会の課題解決と自分の行動が繋がってる！)

「戦後75年企画」を通じて見えてきたこと②



- 同世代(=若者世代)の頑張りは刺激に！
…「自分にできることありそう！」という感覚が大事。
- ゲストスピーカーへの質疑応答・感想を伝える
タイムを取ることが「新たな気づき」につながる
…「こんな考え方もあるのか！」という発見を生み出す。
- アウトプットは様々な形で！
e.x. 質疑応答&感想交流・ブレイクアウトセッション・
アンケート(感想文)・フリップでの行動宣言
…自分なりに想いを言葉にすることが大事！



- アウトプットの方法は工夫が必要！
アンケートでは「もっとアウトプットをしたい」という
声がたくさん出てきている。
➡時間は想定よりも多めにとった方が望ましい！
➡オンラインならではの方法の工夫も必要？

3. 2021年に向けての展望

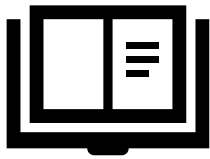
若い世代の取り組みが注目された2020年！

デジタルネイティブ世代のワカモノが オンラインでの平和活動の可能性を切り拓いた1年

(※大学生協での取り組みに限らず、様々な形で若い世代がオンラインの可能性を切り拓いた！)



大学生協の姿勢は…オンラインでも変わらない！



知り



知らせ



考え



話し合い



行動する

対話をしてできることを
考えよう。

仲間に伝え、考え、話し合おう。

まずは知ることからスタートしよう！

大学生協の平和活動の広がりはこれから…

地域の中で平和の実現を目指すステークホルダーの一つとして！

若い世代とつながる
大学生協の“強み”

地域購買生協の
皆さんと一緒に！

地域の様々な平和団体
と一緒にできること

大学の中の協同組合として大学の構成員とともに！

大学の教員・職員とともに
アカデミックに平和を考える

様々なアプローチで平和の
実現を目指す学生とともに

大学生協の平和運動



知り



知らせ



考え



話し合い



行動する

Peace Now! プロジェクト

■ 大学生協の平和活動の広がりはこれから…

- 大学生協の平和活動の基本軸は変わらない！

知り・知らせ・考え・話し合い・行動する

- 様々な形で、平和活動の「広がり」を作っていく！

学生らしくアカデミックに・多角的に

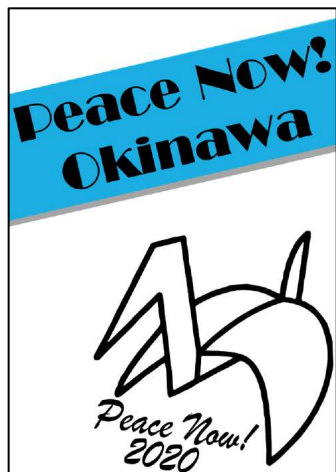
➡大学の教員とのつながりや大学生同士のつながり強化

一緒に頑張る・考える仲間を増やす

➡平和活動に取り組む若者同士のネットワークを強化

➡地域生協の皆様とも一緒に平和活動を広げましょう！

全国大学生協連より2つの報告は以上です。



戦後75年企画
#未来へのバトン



2つのハッシュタグをつけてツイートをお願いします。
#未来へのバトン #ぴーすなう

あなたにとって「平和」とは??
一人ひとりの平和への想いを
ツイートする間に!

あなたの国で、
平和を感じられる場所や
平和について考えられる本を
紹介する間に!

あなたが日常の中で
平和を感じる瞬間を
Tweetでつぶやく間に!